

平成 21 年度 甲州市観光振興計画第 3 回策定委員会議事録

日時：平成 21 年 12 月 7 日（月） 午後 1 時 30 分～

場所：甲州市役所本庁舎 3 階第一会議室

開会（省略） 委員長あいさつ

前回は悪天候の中、熱心に現場を歩いていただき、その後議論を行った。前回参加されなかった方もいるので、今日は前回の経緯を簡単に振り返るところから始めたい。皆さんのお手元にある資料は、今までの観光の関係、そして甲州市で頑張っておられる方から意見を聞き、それを課題と論点としてまとめ、整理したものである。前回は、この資料をもとに議論を進めていった。

今日は「観光振興計画の課題と論点の整理」の中の、エリアごとの主要観光拠点の整備から始めていく。本日配布された資料であるが、意見や提言について募集した結果、市に寄せられた意見、そして観光振興計画策定委員会の参考資料をまずは簡単に事務局から説明していただき、有効に活かしていきたいと思う。皆さんに全体像をつかんでいただいた上で、アイデア、提案まで進めて行きたい。

議事

事務局： 各委員の皆さまのお手元の本日の資料について説明する。まずは、第2回の策定委員会の議事録である。11月17日(火)は午前中に市内の視察を行った。重要文化財高野家住宅の甘草屋敷に集合し、甘草屋敷の視察、および裂石山雲峰寺にて、住職の説明を聞きながら見学した。

勝沼町内においては、メルシャン勝沼ワイナリーの葡萄酒資料館を視察し、館長様よりお話を聞いた。また、それに併設している宮光園の修復風景等を見学した。

大和地域では天目山・景德院の勝頼公の墓等を見学し、大和自然学校を見学して午前中を終了。午後、お手元にある第2回の議事録のとおり議事を行った。

なお、第2回目については、概略ということで山梨総研から説明をお願いしたい。

山梨総研：(議事内容について説明)

委員長： 時間の関係もあり、簡潔な説明であったが、再度各自で読んでいただきたい。

皆さんの良い意見をいろいろいただいている。「大和は蕎麦の町だと言っているのに、ほうとうをやっているのはおかしい」という話もあったが、ほうとうの町としてどう売って行くか、というアイデアも出されている。また現状の課題と、それをどうしていくかという展望についても、意見をいただいている。それぞれ計画に反映していきたいと思う。

資料がもう少し早く届けば熟読できたと思うが、時間が足りなかったようである。送っていただいた資料の説明も、少ししていただきたい。

事務局：(甲州市及び観光協会等が作成している観光パンフレットを全種類配布のうえ、内容を説明。)

委員長： 今紹介していただいたものは観光客向けにできているので、地元の方もこれだけ揃えて見るのは初めてだと思う。パンフレットをまとめただけでも、これだけのことをやっているということが分かった。同時に、塩山温泉の状況を見ると、心配も残る。まずは、全体像を見ていただき、議論の中でイメージをわかせて欲しい。

続いて資料1と1枚の資料、また意見や提言の募集結果の3つを説明していただきたい。

事務局： 続けて説明させていただく。

本日お配りした資料1に、甲州市における観光行政の基本方針とある。基本的な考え方からはじまり、観光行政の重点項目、平成21年度の当初予算による観光予算、これについては一般会計総額のうち観光課で計上している予算が3億3,953万円。また、後ろのページに観光関連予算として各部署にあるバスに関係するも

の、あるいは蕎麦の種子代を含め、1億 8,200 万円を計上している。また、組織体制は現在市長部局、公営企業、教育委員会となっている。続いて、観光資源の一覧表を見ていただきたい。塩山地域、勝沼地域、大和地域それぞれ土産等からお祭り・イベントを分けて記載している。

また、観光交流に関する意見や提言を10月30日から11月20日まで募集したところ、3件のご意見・ご提言をいただいた。松里研究会においては、8項目に50の意見をいただいた。次ページのメリーマムズというグループからはワイン関係、レジャーセンター、観光ボランティア等についてのご意見・提言をいただいた。次ページはFAXで届いたものである。図解入りでご意見をいただいた。

委員長： 前回、観光行政の基本方針のなかで、観光課の予算が3億 3,953 万円と示されたが、他の部課に渡った観光関連の金額について意見があったため、今回示していただいた。今、観光とは、全体の観光まちづくりということであり、こういう中での観光のあり方を考えていくということを進めていることも分かると思う。意見や提言についても、少し読んだだけでも参考になることがある。松里地区などは日本一の枯露柿の産地ということで、住民の方が提言されているので尊重したいと思っている。最後にあるご意見は差出人が分からないが、何か読み取れるものがあれば読み取っていききたい。

それでは今までの前回のまとめや今日の資料等を含めて、もう少し聞きたいこと、知りたいことなど質問・意見があればいただきたい。

委員： トンネルカーブのパンフレットの件であるが、今現在はこのパンフレットをコピーして置いてある。来訪した方から「他の人に紹介したいがパンフレットはこれか」と言われた。その後、問い合せをしたが「当分このコピーでいくという方針だ」と言われた。

事務局： 説明が十分ではなかった。トンネル、それから勝沼地区など、類似したパンフレットが数種類出ており、それが予算の関係で、年度途中で終わる形になった。平成22年度に整理して、少なくとも年間通してあるようにしないといけない。目的によっては学術的研究の方と一般の観光客に配るものは違うのではないかという意見がある。今まで同じもの、3種類あれば3種類をすべての観光客に配っていたのでなくなってしまった。もう少しターゲットを絞って、観光的なものは観光客へ、トンネルについて学術的な研究に来る方にはしっかりした資料を出そうと作業を進めている。平成22年度にはそのパンフレットが使える予定である。しばらくは予算がないので、コピーで我慢をしていただくということである。

委員： 今は準備段階ということか。

事務局： 見ていただいたとおり、いろんなパンフレットがある。これら全てを年間通して出し切ることは難しい状況である。今、整理をする方向で進めているのでご了解いただきたい。

委員： それに絡んで、HPはどのように考えるのか。

委員長： 今日の論点整理の中に「効果的なPR活動の強化」という項目があるので、それを含めてインターネットやパンフレットのあり方も少し議論したいと思う。

それでは、エリアごとの主要観光地の整備強化という論点整理である。読んでいただいていると思うが、いろんな方々のヒアリングをした上で、課題をもとに施策体系を7つ設定している。エリアごとの個性化の推進、そして主要観光地拠点の整備強化、全域のネットワークの構築などと続く。今日はエリアごとの主要観光拠点の整備強化から進めていく。

【エリアごとの主要観光拠点の整備強化】について

宿泊施設の整備・提言

委員長： 資料の14ページ、宿泊施設の整備・提言というところである。少し目を通していただき、ご意見をいただきたい。

大和地区のハード面の整備については、先日、日川渓谷のレジャーセンターにも見学に行った。フルーツ施設はCA、ガスを入れて新鮮さを保てるようにしたいという話だった。また天目山や道の駅などの主要観光拠点の整備強化ということであるが、どうだろうか。

委員： 宿泊施設であるが、塩山温泉について『湯治場として徹底すれば成り立つ』ということが意見として出ている。しかし、われわれ同じ甲州市に住んでいて、湯治場といわれても、どういう効果・効能があり湯治場としてよいのか、ということが伝わっていないと思う。どうしても石和温泉を紹介してしまう。石和のようなケバケバせず、ひなびた良い温泉として塩山温泉を紹介できるのか、そうではなく湯治場として徹底していくのか。

委員長： 資料は、あくまで提案として出された意見である。逆に委員の皆さまから、『湯治場にしたらどうか』また『他に活用方法がある』など意見をいただきたい。資料は意見の一つであり、これからの議論の種である。どうだろうか。

委員： 私は、もう少し建物がきれいであってほしい。新しいという意味ではない。古くても情緒があるようなものであれば紹介もできる。設備機材が老朽化しており、もう少し手を入れてもらわなければ観光でも湯治場でもうまくいかないという気がする。

委員長： この意見は勝沼に訪れたお客様をそのまま帰さず、塩山の温泉に誘導したいという意見である。手元に塩山温泉のパンフレットがあるが、私もこれを見て行きたくなるかという疑問である。

先週、湯布院と別府に調査に行ってきた。別府も今、団体客から個人客への対

応を考えている。団体客が減っても個人客を増やしたり、古くなった温泉をどうやって使っていくか、ということも実は話題になっている。

塩山温泉のパンフレットを見てどうか。皆さんの意見を伺いたい。今、石和温泉は紹介できるが、塩山温泉は紹介しづらいという意見があった。これは行政よりも民間がこれからどう努力していくか、ということに実際にはなっていくと思う。率直な意見を言えば、宿泊施設とすればこのエリアでは重要な位置になると思う。大和地区も勝沼地区も民宿はあるが、温泉施設はあまりない。せっかく歴史ある塩山温泉をどうしていくか、良いアドバイスがあれば伺いたい。

委員： 今、旅館などでHPを作成しているところが多い。経営者の方々にもインターネットを有効活用していただくことを認識していただくと良い。

委員長： 知らせ方の問題、もっと知ってもらおうということである。先ほどハード面での問題も提起されたが、もう少し時代の流れに乗った情報発信も大事である。本当に観光状況が厳しいので整備も大変だが、方向性の一つは湯治場であった。湯治場としてインターネットを揃えていくのか。ハードの面も方向性で良いアドバイスがあるか。

委員： 本来旅館を運営されている方たちがやるべきだと思うが、あえて言わせていただくと、やはり皆さんが感じている通り地元に対する情報が極端にない。勧められないと言っていたが、どんな泉質で、どんなかたちで受け入れてといった、施設内容など、あまりにも地元に対しての情報がない。総合パンフレットではなく、各旅館も個々にパンフレットを作成し、ある程度立派なパンフレットにはなっていると思う。お客さんは個々の目的で湯治、観光などの選択肢から選ぶと思うが、その時に現在の利用者以外の方々の選びようがないということが問題である。

委員： やはり個々の旅館を運営されている方たちの問題なので、部外者の私たちがどこまで意見をして良いものかと思うが、塩山温泉の旅館は地域の無尽に活用したり、団体をターゲットにして経営を考えている旅館が多いと思う。また甲州市は東京など首都圏から近いので、良い宿泊施設がなければ日帰りで帰ってしまう。例えば今回はワインを楽しみ帰って行き、また次回は恵林寺を訪問して、また日帰りで帰っていく。そういう人たちがほとんどである。こういう個人の観光客をターゲットにした良い宿泊施設があれば、もっと滞在型の観光が考えられるのではないかと思う。首都圏に近いことが、甲州市にとって良い点であり悪い点でもある。

委員： 勝沼で宿泊施設をやっているが、勝沼の場合は塩山と違い、温泉ではないので、逆に温泉がとても羨ましい。勝沼はぶどう、ワインがあり、特にワイナリーが話題になっている。お客様もリピーターがいる。一度来ただけではワイナリー全部を回れないが、別のワイナリーにも行きたいそう。宿でもワインを提供している。

塩山温泉はせっかく温泉があるのに効能については知らない。私の親たちの時代は温泉に入りに行ったようだが、今は日帰り温泉もたくさんでき、そういう面での利用数が減っていると思う。また、せっかく甲州市として合併したので、例えばワインなども提供していただくと良い。勝沼も宿が少ないので泊まりきれない方がいる。

委員長： 皆さんの意見を統合する。

塩山温泉は 600 年の歴史があるが、湯の効用、特長などを地域の住民も知らないこと。もう一度塩山温泉の魅力を整理することで、市が情報発信していくと良いと思う。

昨日、下田から富士宮の焼きそばなどを調査してきた。歩く観光客が増えてきており、歩いた後に温泉に行って泊まる傾向があった。そういう方々は塩山温泉と似たようなところに泊まっていた。豪華な旅行をして美味しいものを食べるより、歩いてコストをかけず旅をしたい。でも地元温泉があれば立ち寄りしたい。

今の勝沼と関係を持てば、そのような個人客も入ると思う。お客さん向けのネットワークを組んでいくことが一つの方向性だと思った。

団体客を個人で受けて、NPO法人として着地型でやっているオンパク（温泉博覧会）というものがある。今でも客数が減っていないのは、10～20人のツアーをNPOで作っており、1億6,000万円の売上がある。それは宿泊付きで案内もする。案内するときに、1人500円で参加できるが、案内人もボランティアなので時間給が1,000円と安く、赤字になっていない。10人くらいのグループで案内するので、案内される側も親しげになる。このようなグループをいくつも組み合わせている。それらが全体になると、ものすごい数になるという方法でやっている。

地域の中を歩くと、商店街の8割が閉店している古い町で、若者がギャラリーを開いたりする動きがある。方法論としてはNPOなどが工夫して地元側が協力すれば、今の温泉の利用と今の勝沼などにも合っていると思うので、また見ていただきたい。

旧大和地区のハード面の整備・フルーツ加工体験施設、フルーツ直売センター・観光施設の指定管理者問題

委員長： 大和地区やフルーツ加工体験施設、指定管理者の件はどうか。大和の渓谷レジャーセンターが古くなったという意見もたくさん出ていた。公共施設が古くなってしまったという問題、また道の駅の甲斐大和は入口であるという意見もあった。蕎麦処といっても蕎麦屋が2軒しかないという事実もある。何かご意見がないか。

委員： 加工体験や直売センターに少し関わってくることだと思うが、塩山のぶどうや

桃は、糖度で一番だと思う。出荷量では笛吹市に敵わないと思うので、フルーツ加工体験や直売センターを設けるならば、『山梨県で一番おいしい』というPRを表に出して進めると良いと思う。

委員長： 意見の中で、『岡山がまだ一番になっていないが一番だと書いてあった』とある。実際に岡山に行くと『桃が一番』『ぶどうが一番』とうたっている。何をって一番なのか、出荷量か品質か非常に分かりづらい。ただ勝沼のぶどうとワインは東京でも、私が把握している限り日本一だと皆思い込んでいる。しかし桃については山形の桃だったり、さくらんぼも山形の佐藤錦など有名である。今日も日経新聞に地域ブランドのランキングが掲載されていたが、山梨は上位には載ってきいていなかった。

本当に良いものの品質を訴えていくことを他県もやっているの、もう少しPRをするやり方はあると思う。

委員： 糖度のグランプリのようなイベントもあるので、甲州市が積極的にPRしていくと良い。糖度では勝てると思うという意見が農家の方から寄せられている。何が一番かという糖度が一番、甘い、美味しいというPRができる。

委員長： 先ほど別の例を出したが、別府ではボランティアが案内しているときに、観光客にそういう情報を吹き込んでいく。10~20人の人を対象に案内しながら『ここは日本一の温泉だ』とパンフレットだけではなく、案内しながら説明する。甲州市は体験型でも、まだ案内するシステムができていないようだ。良いものがあったとしても知らせることが重要なので、その仕組みづくりを入れていければ良いと思う。

委員： やはり知らせる方法として、回数を多くして、いろんな場所を歩いて回りながら案内をしていくのは、かなり効果的だと思う。

委員長： なかなか行政ではそこまでできないので、NPOなどが育ってきたら、行政が応援すると良い。先ほどの話のNPOは、行政のお金はほとんどもらわず1億6,000万円くらいで運営している。別府という場所柄もあるが、是非そういうところが出てきて、また行政が応援できるようになると良いと思う。

委員： 今の委員の方の意見は重要な部分があると思う。ヒアリングのときにも述べたが、山梨の果物、ワインといった場合、必ず量を言う。出荷高が一番であるとか、ぶどう生産量が一番であるなど。今一般で評価されていることは、そういうことではない。消費者も買物をする時に量を求めているわけではなく、貴重なものや本当に美味しいと情報のある商品、またはその場所に目をつけて行く。インターネットで調べて行く場合も同様である。例えば大きなさくらんぼであるとか、同一の糖度を持ったものとか。そういうものを情報としてアピールしていかなければ意味がない。そもそも目を引く商品が作られなければPRできないので、各生産農家が勉強をして目玉商品を持つこと。持ったところで初めて強さを発揮すると思う。

委員長： 塩山温泉の方がぶどうや果物、ワインのことを知ることのできるような情報発信がもう少しあると良いということだと思う。実際に行くと山梨のワインやぶどうに対する評価は非常に高いのだが、意外と知られていない。地元の方でも、実際に作っている方以外は知らないかもしれない。地元の方にも知ってもら、そして外にも知ってもらような品質向上をとということである。

偶然見ていた『くらしの手帖』に徒歩旅行という記事があり、山梨県甲府とある。そのいちばん初めに『ぶどうの丘は静かです。雨の朝』とある。かなり勝沼のことが取り上げられており、『月の雫』という名前が非常に洗練されていてお洒落だと意外な評価をされていた。紹介の仕方では、伝統のある『月の雫』もまだ新鮮に受け止められているようだ。品質を売りに出せば面白いと思う。

他にはどうだろう。指定管理者の問題についてはどうか。日川渓谷レジャーセンターも古くなっているのもう一度見直すことが必要ではないか。パンフレットを見ると、山も魅力的である。パンフレットには三窪高原の話や湯ノ沢峠の花標などの紹介があるが、連動していないので勿体ない。それと日川レジャーセンターとも結んでいったら良いと思う。

あとは大和の駅前が、町の入口であるが寂しいという意見があった。勝沼ぶどう郷駅、甲斐大和駅、塩山駅の中で、大和駅だけが見劣りするという。私も現場を見に行っていないので分からないが、どこも同じ入口なので、やはり整備が必要かもしれない。

【市全域のネットワークの構築（観光資源の連携）】について

甲州市内の2次公共交通の整備

委員長： 前回は話があったが、勝沼などでワインを飲むと、2次交通がダメだという話があった。塩山でも文化的施設を見に行った後の2次交通がうまく整備されていない。特にワインでは飲酒運転の問題もあるという話がある。勝沼でやっているワイン・ツーリズムでは、無料のバスが当日のみ出る。このように今、地域内の2次交通をどうしていくかが全国的に問題になっている。その辺りについて皆さんからも意見があったが、土日祭日は市営バスも運休していることもあり、オンデマンドバス、ジャンボタクシーの問題、歩く観光の問題、フットパスの問題がある。この辺も塩山市全体でやっております評判が良い。「ある〜くこうしゅう」というマップブックもうまく全体に広がっていた。その他、交通の問題、全域のかかる課題についてご意見を伺いたい。

2次交通の問題については、皆さんは問題視しているが、どうか。

委員： 最初の委員会で、2次交通について質問したが、その答えは2回目の委員会で

出たのか。

委員長： まだ具体的な政策までは詰めていない。具体的にはどこの2次交通に期待をしたいのか。

委員： 全体である。

委員長： 全体というのは甲州市全体の2次交通ということか。今の段階で詰めていることがあれば伺いたい。

総研： 観光課長より前回少し話があったと思うが、提案として出していただければ政策意見の中に反映されていると思うが。

事務局： 第1回目の後、委員よりお話を受け、当日来られなかったので、資料には入らなかった。基本的な調査はどうかということで、総研に今調べてもらっている。市としては現状の通りである。それ以上のものは、逆にこういった場で提言いただければ今後の取り組みの基礎になる。そのための会議である。

総研： 事前に事務局より公共交通、特にデマンド交通について調査依頼があった。その内容について、簡単に説明させていただく。2次交通の問題については、今、いろんな市町村において、地域公共交通活性化協議会という交通会議の中で議論がされている。それに基づいて総合連携計画を作っている自治体も多い。山梨県内でも既にデマンド交通が試行されている場所がある。ただ、そういったものを観光の中で取り入れていくことの難しさを感じる。デマンド交通では、ジャンボタクシーの9人乗り程度のタクシーを回すことになる。やり方は多様であるが、例えば事前に登録をし、必要な時にインターネットや電話で予約をし、その家まで迎えに来る、ドア to ドアが理想的の考え方である。特に高齢者や車の運転ができない方に便利で全国的にもある。しかし、実際にはなかなか利用者が増えない理由から費用の面で難しい。特にシステム導入等の初期コストがかかる。連携計画を策定した場合、国庫からの補助が出るため導入している自治体もあり、山梨県内では身延や増穂で導入している。今年度、甲府市や北杜市などでも実証運転を行っている。ただ3年間の補助が切れたときに継続できるかが課題である。

観光型のバスについては、例えば土日だけ観光ルートとしてバスを巡回させている市町村もある。季節限定としたり、四季に応じてルートを変えて運行するなどの工夫も見られる。いろんな調整を経て、委員の皆さん他いろんな方の意見を聞いた上で検討していく予定である。

委員長： 実際に全国で2次交通としてバスを出しても、空車の状態で走っているところ結構多い。要望はあるが、実際に自分は乗らないということで難しい。観光地であると変動が激しいため、うまくいかないところが多い。うまくいっているところは、終始徹底して15~20分しか待たないように本数を多くしている。金沢なども普通のバスに比べワンコインで行けるため、かなりの本数を出している。金沢のような大きな観光地は成功しているが、富山などはLRT(軽量軌道交通

Light Rail Transit) というドイツ型の電車を走らせている。大都市方面はうまくいっているが、小さいところはある期間だけ集中的に本数を出している。このように調整をすとうまくいく。ガラガラやると、言うのは簡単だがコスト面が厳しくなる。もし実験的に行うならば、このシーズンの日曜日だけ、利便性に対応できるくらいの本数を必ず出すなど、密度の高い議論をしていかないといけない。思いつきだけでは2次交通は実際にうまくいかないことを、いろんな調査を見て実感している。

皆さんの要望があるならば、ある地域だけを一度しっかりやってみて、うまくいったら地域を拡げていくという形をとれば可能性はある。

委員： デマンドは地域が使うものなので無理だと思うが、ワイン・ツーリズムが開催された時に無料バスが巡回し、利用者から好評を得た。先ほど言われたように集中的でも時期や土日のみなど限定しても、巡回することで観光地が分かるという部分があるかもしれない。短期間でも、徹底的に短い間隔で巡回することを一度でもやらないと、逆に良い観光地があるということ知ってもらうのが難しい。やらないよりはやったほうが可能性は生まれると思う。

委員長： どの季節が良いか。

委員： どの季節と言われた場合、やはり各地区でシーズンが違う。

委員長： 地区別に実験的に集中して走らせるということか。

委員： それが一番効果はあると思う。

委員長： 例えば勝沼はいつが良いか。

委員： 勝沼はやはりぶどうの時期、秋である。

委員長： それはぶどう狩りの時か、ワインの時か。

委員： ワインとなると新酒の時期に絡めると11月になる。ワイン・ツーリズムの時期である。

委員長： ワイン・ツーリズムは無料バスを出しているが。

委員： イベントの参加料を払えば乗車できるが、1日限りである。しかしその時期になると、ぶどうはない。ワイナリー巡りだけになる。

委員長： では、ワイナリー巡りとぶどう狩りの時期に、勝沼では実験的に増やしていくということか。

委員： そうだ。ただ、ぶどうのある時期とワインを仕込む時期がずれる。

委員長： だから、2つの時期に分けて行うということだ。

委員： ぶどう狩りとワインが楽しめる時期に巡回バスがあれば、非常に効果はあると思う。

委員： 塩山の駅付近に貸自転車があるが、どのくらいの利用があるのか。

事務局： 観光協会が一昨年から運営しており、現在自転車は5台ある。延べの利用台数は分からないが、結構利用がある。坂道が多いので、電動付き自転車の検討も内

部的にしているところである。

バスの関係で、配布した観光関連予算について説明する。資料1の一番後ろである。

市民生活課の2段目に90,000,000円ある。これが塩山地域と縦断線という塩山・勝沼・大和地域を運行しているバスの費用である。下から2つ目の課名の中に、勝沼まちづくり推進課の15,003,000円は勝沼地域の巡回バスである。全体で1億円ほどバス路線の投資をしている。

実は、合併後、観光地を結んだバス路線について市内のバス運行会社に提案をいただき、そういう路線を作る検討をしたが、運行できなかった経緯がある。最終的には時間がかかりすぎて実効的な路線が作れないということで、暫定的に縦断線が塩山・勝沼・大和を結ぶために走っている状況である。

委員長： このバスは市民の足全体と観光客用の両面か。

事務局： 縦断線は主に観光客向けである。

委員長： 今の話だと、やはり全体を回遊することは、時間もかかり本数が少なくなってしまうということだ。先ほど、それぞれの地区に魅力的なバスを運行するという話があった。勝沼についての話があったが、他の地域はどうか。塩山は逆に言えば、もっと自転車観光や歩く観光を強く出していった方が良いのか。それともバスを走らせた方が良いのか、意見をいただきたい。

事務局： 季節的なバスの例では、笛吹市・山梨市で春の時期に、実験的に桃の花バスを期間限定で運行している。

委員長： 皆さんから、時期的に足を確保した方が良いと思う地域がないか。例えば、松里を枯露柿の時期に実験的にやってみるのも良い。

歩く観光ツアー

委員長： 歩く観光というのはどうか。九州の国東半島に行っても下田に行っても、本当に歩く観光ばかりである。時代が歩く観光に変わってきたかと思うくらい、歩く観光が盛んになってきて、フットパスなどの話がずいぶん出てくる。別府も歩く観光が盛んで、湯布院もクワオルト（温泉保養）構想を打ち出し、山に歩いていくなど、ドイツと連携してやっている。先日訪れた妙高でも同様の方向に向かっている。小布施も農村部を歩くマップを作成し、中心部に団体で来るだけでなく、農村部をゆっくり歩いてもらおうという傾向が強い。今、勝沼ではフットパスをしている。塩山でも歴史的な箇所を歩くことをしているが、まだ定着していない気がする。その他、大和も山も魅力があるし、大菩薩も魅力がある。意外と全体では、歩く観光、フットパスを強く打ち出していないようだ。

委員： 2次交通の話に少し戻る。成功例の中で、イベント時、つまり1日のみとか1週

間の場合は、わりと採算性が合っている、または補助金でまかなえているのならば、やるべきだと思う。例えば甲州市内に、いろんな地区に1～2日、1週間だけのイベントがある。それをスケジュール化して年間スケジュールとして1枚の紙またはHPなどで提示してはどうか。それによって、各イベントの2次交通が事前に広い範囲で周知できれば利用率が高まるので、かなり採算性が取れると思う。

毎年、北杜市の台ヶ原宿のイベントに行っている。ピストン輸送であり、2次交通といえるか分からないが、マイカーは駐車場に停めて、イベント地域には車を乗り入れないという方法で、相当な乗車率がある。観光目的の方は、そういう場所に行く。そういう部分の便宜が十分であると、必ず利用する。もし有料ならば必ず収入もあるので採算性は高い。だから定期的なものではなく、施設やイベントにあわせたスケジュールを年間で作成すると良いと思う。

歩く観光に関しても、駅から歩ける場合と、ある程度離れた場所から歩くという場合があると思う。その点に関してもピンポイントな2次交通の整備と、またそれを周知させる手段を検討するべきだ。周知もそれぞれ単独で行うと、それぞれに予算がかかるが、それを通年の中でスケジュール化すれば問題が解決すると思う。

委員長： 私も台ヶ原に行ったが、パーク＆ウォークという方法でバスが来て回転している。全国的にオンパクなどのように、イベントがないと訪問者が少なく、宣伝が打ちづらくなってしまった。歩くことも集中的にオンパクの期間を決めてやっている。良い季節に歩いてもらうという考え方だ。その時に2次交通などを考える。勝沼でもやっているのは、駐車場を一部設けて、そこから歩いて廻ること。そこにバスを巡回させると台ヶ原のようになる。今は、そういう仕組みを作っていないと、車での訪問者が多いため、混雑が大きくなる。そして、イベント化していかないとマスコミも扱ってくれない。

非常に貴重な意見をいただいた。他にどうだろうか。今の課題は、公共交通の2次交通、パーキングの問題、イベント化した後のPR、魅力的な資源を集中的に行うことである。他にもご意見があればどうだろう。

委員： 今、歩く観光が日本全国で非常に盛んになってきているが、日程を決めてやるケースと、五月雨的に季節に合ったケースなど、いろいろある。

市内の名所・旧跡がたくさんある中で、近年、例えば塩山駅から松里方面・恵林寺方面、あるいは塩山駅周辺などを歩く人もたくさんいて、目的地に行くまでに、よく歩くと感心するが、途中で休憩をとる場所を農家の地先などに設けるなどの協力体制があれば、少しでももてなしの心という対応が出来ると思う。以前、子供たちの安全のために、子どもの家110番という制度を作った。同様に、この家に寄ればお茶などの提供ができるなどの体制を作っていけば良いと思う。「甲州

市では特定のマークの家に行くとお茶も飲めて、地域の話ができる」という体制も絡めた中で歩く観光を取り入れていけば、あまりお金のかからない方法でもてなしの心を伝えることができる。歩く観光のパンフレットの中に、そのマークと説明を入れていくと良いと思う。

委員長： そのような体制が静岡で始まったというので、私も見てきた。今言われたように、ちょっと休むところを普通の家で提供する形が出てきている。甲州市全体で縁側カフェのような対応を、普通に生活しながら提供していくと良い。

尾道などでもカフェが非常に流行っている。今度、岡山に調査に行くが、男の人はお酒を飲むが、女の人で昼間から飲む人はなかなかいない。そういう時に、委員が言われたように、ちょっと楽しめるところを方々で作っている。それを行政が作るのではなく、住民が作って、行政から上手に応援を受けるような仕組みができると良い。昨日訪れたのは、下田にぎわい市というが、NPOが主体で休む所を作ったり案内したりしている。

先ほどお話した、別府などでも歩く観光として、1時間位で入門編として歩いてもらって、後は自分で歩いてもらうという形で企画しているところが多い。健康ブームもありウォーキングが流行っていて、ウォーキングの後に温泉へというツアーも人気がある。そこで歩いた時に、もてなしとして縁側カフェを甲州市がもっと大きく打ち出していけば、ここの観光の魅力の一つになると思う。甲州市全体でやれば、マスコミも大きく扱ってくれるし、やりたいという農家も出てくる。

今、歩く、動くという交通アクセスの問題であるが、アクセスの方法は、全国でも工夫しているところが多い。やはり流れが良くなれば、来客数も増えるということもある。イベントと絡めると、皆の足が出やすくなる。

委員： 以前、勝沼町のときはトイレの問題があった。個人の観光客が来たときに、どうしても必要となる。その時にトイレを貸してくれる施設を、看板を出して案内することを今でも行っている。一般の民家は難しいが、商売をやっている場所では同じ看板を出しサービスを提供してくれれば、観光客にはありがたい。

委員長： 確かに、他の場所でも、もてなしの時にトイレの提供はとても大きい。イギリスのフットパスに行くと、パブなど貸してもらう。トイレを設置すると、行政にお金がかかり管理も大変であるが、店も少しでも入ってもらうことで売上にもつながる。甲州市全体が「もてなし」として、トイレを貸してくれる店があればそれを掲げて、一緒に案内もできるなどのサービスの仕組みを作ると面白い。

資料にある長野市松代町には、今60万~80万人くらいの観光客数がある。学生とデザイナーが一緒になり、町歩きのマップを作成している。立教大学の観光学部などでも、若い人たちの旅離れについて言及している。若い人たちが東京で便利に暮らし、車も持たなくなってしまう、旅にも出なくなった。このような若い

人をどうするか、ということが問題になっている。若い人にも歩いてもらおう、ということで工夫をしている。観光にも出なくなった、海外にも行かない、車にも乗らないなど、少し引きこもりのようになった若者に、もう少し外に出てもらう工夫をする必要もある。こうした企画も、実はオンパクの中にあり、アート系の人たちが空き家の利用をして、アートとまちづくりを結びつけている。

【文化の見える交流のまちづくり】について

歴史・文化・自然の課題

委員長： 塩山なども歴史的なものがある。観光のポスターには「楯無鎧」があるが、ポスターにあってもそれを見ることができないという意見があった。

また、甲州市にある3つの国宝のうち、1つの達磨の絵も国に託してあるということで見られない。大善寺だけは国宝が見られる。京都の観光パンフレットを見てみたが、京都には国宝が山ほどある。季節になるとライトアップしたり、イベントとして見られるような仕組みを作っている。このときだけ御開帳するといったことをやる。京都ですら、ある期間はライトアップして夜見てもらおう、国宝もこの時に見てもらおうと工夫をしている。

日ごろは見られない文化をどうやって見ってもらうか。

もう一つは「食やグルメ」だが、まずは文化をやってから食とグルメの話をしたい。

国宝や文化があるのに上手に使っていないことに関して、意見、アイデアがあれば。

委員： 京都では、冬は観光客が少ないか。

委員長： 冬の観光は少ないので、工夫している。京都は甲府と同じで冬は底冷えするため、秋の観光が終ると観光が終わってしまう。春などは修学旅行が来たりもするが、冬は少ない。そういう時期にも呼ぼうという考え方がある。

委員： 通年を通して来てもらおう、ということか。

委員長： 観光というのは施設を稼働させなければならないため、イベント的な企画をすることによって来てもらう。金沢もフードピア金沢ということで、「冬になれば料理が美味しい」ということをPRして、新しいお客さんをつかまえようとしている。

逆にスキー場の地域、ニセコなどでは、夏の観光ではラフティングやカヌーをやるようになっている。施設を持っていても、稼働しないと儲からないし、施設の魅力が発揮できない。冬でも魅力を発揮できるというのは、少人数でも来てもらおう、冬には美味しいものがあるとか、ライトアップしたりして、見たことのない

ものを見ることができ、ゆっくり来てもらおうというのが京都の戦略だ。「そうだ、京都に行こう」というコピーもすごい。甲州市も全体のいいコピーがあればいい。ここにはワインがある。文化もある。この前に話が出たが、「楯無鎧」も御開帳のように、冬の時期に見られるようになれば、来てくれる可能性はある。

塩山はゆっくり歩くと、文化的によいものがたくさんある。勝沼もブドウが終ればおしまいではなく、大善寺もある。大和地区にも文化はあるが、どうやって見せるか。

もう一つは、今、文化を見せるだけではなく、創造、アートの力が評価されている。来年、瀬戸内海のフェスティバルがあるが、古いものに新しいものをつけて、文化と創造を活かした交流が増えている。古いものだけではなかなか来ないため、現代アートを古い文化にぶつけたりなどのアイデアも出ている。

見えない文化をどうやって見せていくか。甘草屋敷からずっと歴史・文化につなげる文化のフットパスもやっていけばそれなりに道も出てくるのではないか。

委員： 今話があったようにオフ期の京都、冬の京都については、20年か30年前にJR東海と組んで冬の京都を大々的に宣伝してやり始めた。

塩山もいろいろな古い史跡があるため、放光寺の先生と話をし、いろいろチャレンジしたことはあったが楯無鎧で止まってしまった。達磨図のほうが無理だったのか忘れたが、行き詰まってしまった。行政にお願いする前に自分たちで計画するという試み。今、先生がおっしゃったそれに新しい文化を付けるというもの。私もテレビで見たが四国の若い人たちがやっていた。あれをやるには相当のエネルギーと中心になる人がいないとなかなか難しいが、そういったものも、やはりこの甲州市、勝沼地区、塩山地区、大和地区とあるためどこでということではないが、やはり何か動き始めるきっかけとしてそういったものがないと変わって行かないかな、と思う。

委員長： 前回、委員から『芸術がないためアートを入れて欲しい』という話があった。文化に古いものだけでなく、新しいものをという意見があった。実際に新しいものを入れていくということで、妻有トリエンナーレや新潟市、瀬戸内海の直島を中心に現代アートは人気がある。

この甲州市周辺には、結構アーティストがいる。アートをしている人がこの地区にはいるが、発表する場がない。八ヶ岳には結構、ギャラリーがある。ギャラリーや現代アートが魅力になっている。芸術家の発表する場をつくっていく。別府でも空き店舗で現代アートを展示している。別府八湯温泉泊覧会(オンパク)別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」というのは、現代アートの博覧会で人気あった。そのイベントはNHKの日曜美術館で扱われて人が来る。だから古いところに新しいものを入れると、マスコミに扱われたりして、格調高い観光ができるという可能性もある。今の古いワイナリーもメルシャンさんも頑張

ってやっておられるし、甲州市もワイン文化発祥の地「宮光園」の再生をやっておられるが、そういうところで現代アートが結びつく話題になると思う。

楯無鎧は御開帳の期間をつくって見るということができないというが、なぜできないのか私は分からない。ポスターまでに行っているわけだから、たとえ1週間でも10日間でも見るのであれば、イベントにはなる。こうした話は全くないのか。

事務局： 全くないわけではないが、半分屋外のようなところであるため、天候によっては見られないという状況がある。それが今の施設だとネックになっている。

委員長： 雨が降ったときはダメだということであるなら、期間を限定して見せるときの保護の仕方を考えればできるということか。

事務局： 過去にも恵林寺の宝物館、菅田神社などが連携して年に1回、開くことを検討したという動きはあった。今はしていないが。

委員長： ではこの委員会はその方向で考えていきたい。達磨の絵も1年に1回は里帰りしていただくということであれば、甲州市の財産だから権利はある。釈迦堂遺跡もある。こうした文化が見えるようにし、アートもつなげてやっていけば、甲州市は伝統もあるし新しいアートも見られる面白い魅力が出てくると思う。

私はまだ見ていないが、見に行きたいと思っているのが、平和文庫、笛吹川芸術文庫もそうだ。どなたか見られた方はいますか。非常によいものだと書いてある。そういう新しいものに対しても、目が行っていないのかなという気がする。

食文化・グルメにかかる課題

委員長： 時間の関係で、食文化とグルメという重要なところを議論したい。

「皆吉」のうどんと塩山館のタンメンだけしかないのか。おいしいよ、という割には、前から言われているワインに合う食のコンクールをしても、受賞した食を観光客が食べることができないという批判もあった。

以前にも、「食を文化とする。お客様を受け入れるホスピタリティの心をはぐくむ。たくさんある文化資源の活用」という、3大コンセプトでまとめてある。うまいまとめかたをされていて感心していた。

昨日、富士宮の焼きそばを見に行った。年々増えているということで、50万人観光客が来ているという。しかし商店街にはほとんど人が歩いていない。浅間神社前のお宮横丁だけが集客していた。

今年、秋田県横手市でB級グルメ大会をしたら、14万人が来て、経済効果があったと日経新聞に出ていた。今朝も岩手県八戸市でB級グルメ大会がにぎわっていると、テレビで放映されていた。B級グルメをしるということではないが。

食に関してはどうか。

菰崎で私がお手伝いしたジャム、「宝石のようなジャム（ビジュール・ド・穂坂）」は、これまで1年に750個作っていたのだが、1日で600個以上が売れた。1セットで1,500円。これを湯布院に持っていったら、皆びっくりして、すぐにでも売りたいということだった。あるスーパーではお歳暮で扱いたいと言われた。甲州市は、フルーツがあるからこうしたお洒落な食品加工をやればいい。

湯布院でも「ゆずねり」を売っている。1300円くらい。ゆずを取ってきてその場でいい香りをさせて売っている。こうした演出で、お客さんも来たり、喜んで買って行ったりしている。季節のお洒落な食品を作って、よい香りをさせ、そこでピンに詰めている。

食文化については、せっかくフルーツもある、ワインもある、桔露柿もあるのだから、これを生かしていく。別府も、B級グルメの「とり天」を売り出している。約70店くらい。私も知らなかった。

委員： 菰崎のジャムはどういう方が製品化したのか。

委員長： 今回は、フードディレクターやフランス料理のシェフの指導で、農協婦人部の3人でスタートし、その後人気が出て、14人に増えた。お洒落なポスターも作った。実力のあるデザイナーによるパッケージデザインと、キュイエットというフランス料理店のシェフに指導してもらった。非常に美しい色をしている、「宝石のようなジャム」というコピーで、穂坂町のブランドづくりした。

委員： この間、松里の桔露柿を商品化できないかということで研究した。「柿のたね」というのをある市内の生菓子屋さんが作っている。もともと桔露柿は高価なものなので、それをどうやって商品化したらいいかということを中心に研究したのだが、なかなか販売が伸びず、途中で断念した。桔露柿は現在でも加工された付加価値のついたものは県内でもかなり人気がある。市場でもかなり人気があってお歳暮には高くなっているが、もう少し桔露柿だけでなく、桔露柿を使った加工品を考えていきたいと、JAとも話をしている。こういうものがうまくいけば、月の雫のようなものになる。

委員長： 月の雫も、「暮らしの手帖」にも「非常に洒落た名前でおいしい」などと書かれ評価を得た。商品化の力をつけていくような政策を作っていたらいいと思う。他の町では、デザイン料だけを出すところもあるが、デザイン料が出せない農家が多い。それを市が応援したりしている。農家の人がある程度集まって、地域ブランドを作ろうというときには応援できるような体制も必要。

また、前回話がでたように、ワインに合う料理を出すコンクールがあった場合、受賞した料理を食べられる店がわかる看板やマップなど、応援してあげられればいい。

委員： 前回、蕎麦の話とほうとうの話が出たが、ほうとうだと人は寄ってくる。蕎麦だと人が集まらないということであれば、ほうとうに特化したらどうかという話

も出た。ただ、ほうとうだとお腹がいっぱいになってしまう。ほうとうを題材にしたお菓子やおつまみといったものを開発したらどうか。そうすると1からではなく、例えば山梨県の南のほうでやっているミミというのは、耳の形でちぎってお菓子にしたということも聞いた。そういう関連の何かを作り、特化したらおつまみにもお菓子にもなるという気がしている。

委員長： 宮城県では、山梨県のミミのような、「ひつつみ」の食べ比べみたいなことをしていた。ほうとうだけでなく、他のものも出てきて食べ比べみたいなものが少しずつあると、地元の人もほうとう以外のものも食べてみたいと思うのでは。同じような種類の煮込みうどんみたいなものもやっていますよ、ということ全国放送で流していた。ほうとうの量を少しにして、違うものも少しずつ食べるということ。

今の富士宮に行くと、豚肉やマスもブランドにしたりして、その他、餃子も出てたりしている。それが250円～300円くらい。ちょこちょこ多種類のものが食べられる。それでこんなにたくさんの方が来るんだと思った。今、言われたように一つをたくさんでなくて、少量を多種類という考え方もあると思う。

他にはどうか。暮らしの手帖で、古屋学而さんのお嫁さんが経営している原茂園が出ていた。古い建物を利用してお洒落なカフェを出しているというのが出ている。

鳥モツなどもタクシーの運転手などに聞くと、今、食べに来る人が結構出てきたといていた。甲州という名前は得だ。「甲州鳥モツ」や「甲州ほうとう」など、甲州とつければ、甲州市とイコールになる。

また、江戸東京野菜、京野菜とか加賀野菜もそうだが、地野菜の人気がある。甲州野菜とか、甲州伝統野菜といったこともできるだろう。もう少し、食についての開発のアイデアを。観光振興計画であれば、もっと食のアイデアを皆さんで出してほしい。先程いったが別府の「とり天」というのは70軒ある。それでも名物だといって、70軒もあれば2～3軒寄ってみようかとなる。数自体でブランドとなる。今度は冷麺をするそうだ。冷麺は盛岡でやっているが、別府も冷麺なんだといている。富士宮焼きそばは今、5つのブランドを、他にも作っている。食の開発というのは、小布施にしても、次々と新商品を開発しようとしている。行政も方向性を出して、ワインに合う料理に、具体的に推奨レストランの看板を作り、分かるようにしてあげるといったアイデアがあればいいと思う。

韮崎のジャムのポスターのように、甲州市の美味しい桃ジャムというポスターなどを作って、月の雫のポスターなど、何品か挙げれば魅力になると思う。

委員： 甲州というのは甲州かつどん。ソースカツどん。そういうものもある。

委員長： 実際、私も駒ヶ根に行くと、ソースカツ丼は山梨でもあるが、PRの早い者勝ちだと思った。向こうがソースカツどんと言ってしまったため、駒ヶ根市のものに

なってしまった。私はカツどんという卵とじを食べていて、山梨に来たらソースカツ丼だったから、びっくりした。駒ヶ根市に行くと何軒もある。だから早い者勝ちで、甲州鳥モツも甲府で聞くと、2軒くらいしか駅前に出していないという。それをいち早く、甲州鳥モツとしてしまえば、甲州鳥モツ丼などもできる。

委員： 今、鳥モツの話が出たが、我々がいろいろな旅行会社と提携でいろいろな仕事をしているが、やはりB級グルメ、B-1グランプリ等々で「おつけだんご」が審査員特別賞を取ったり、鳥モツがあったりする。そういうものは県外の旅行会社、お客様はかなり敏感に知っている。そういうものをネタに企画をして今、進んでいる商品がある。それを我々の仲間が作ったり、鳥モツ屋さんをお願いして、提供するという企画をしている。

話は変わるが、ヒアリングのときにも話したが、ほうとう・そばという、甲州市という形でくくったときにぼやけてしまう。ほうとうという、甲州名物というような括りになると思う。もし甲州市でやるとすれば、せっかくワイン豚があるので、豚肉を使ったいわゆる誰でもできる、難しく考えない食べ物。焼肉なのか生姜焼きなのか、そういったもので豚丼を提案していた。ワイン豚というものが甲州市で作られているのと、甲州には野菜のほかにワイン、果物がある。豚というと生姜焼きかトンカツを考えしまうが、ワインとか果物、味噌を使ったタレで焼いた豚丼をそれぞれの地域、店、個人が考えて出していくと、甲州市においてはかなりバラエディに富んだ個性のあるソースの豚丼ができるのではないかな。

その出し方も、丼で出すのか皿で出すのか、またはいろいろ出すのかと考えてやったときによりいろいろなことができる。

名物にするということは、先程のとおり天も宇都宮の餃子もそうだが、かなり多くの場所で食べられる、作るのにそんなに難しくないと、言いながらもそれぞれの店が自己主張した商品があるというのは必須条件だと思う。そういった意味において、豚丼というのは、簡単に作ろうとすれば家庭でも作れるし、そこでプロの意地が入ることによって地域性が出てよいのかなと思った。

委員長： 甲州豚丼と言え、肉とパイナップルを合わせたり、フルーツを乗せたりというものが開発できればいい。ワインに合う料理も随分されてきたがなかなか定着していない。そういうものを定着させるときに、市が全市挙げて旗振っていくようなものを作っていけばいい。今言われたように甲州豚丼というのは一軒だけではダメ。それを皆で美味しく工夫して出していくことで、新しい名物料理が生まれる。A級のグルメはそう簡単にできるものではない。先程言ったように、甲州とつけてしまえば勝ちだ。

だから観光のポスターもコピーなども「食は甲州市にあり」などと言ってしまえば、ユーモアもあっていい。

美味しそうな食のヒントがあれば、名物料理はもっと考えられるのではないかな。

食を開発する機関をつくることはできないのか。

事務局： 勝沼町時代にいろいろやった。町民からワインに合うような家庭料理を募集して、いいものを何点か選んで冊子も作ったこともあるが、なかなかそれが定着しなかった。この前のツーリズムのときにもワインに合うようなものをやり、本も出したがなかなか広がってこない。

委員長： 他の町では、行政が旗だけを作ったり、マップを作ったりして応援してあげるといっている。飲食業の人、JAの人、商工会の人が連携して、何らかの魅力ある食というものを定着させていくような方向へいかないと、「山梨はおいしい」とは言われない。ぜひ、何か甲州市の中で名物料理を作っていく仕掛けと、具体的に定着させていく仕組みを作ってほしい。必要があれば、小布施や湯布院の人を紹介する。甲州市は美味しい。「食は甲州市にあり」と言われるようにしてほしい。

委員： 先程、宿泊施設の整備といった話があったが、大規模な施設改修というのは今、難しい。そうするとやはり食やグルメといったところに温泉旅館の方は知恵を絞ってほしいと思う。長い間、地元の無尽のお客さんや宿泊客に対して、料理などを提供していた経験がある。そこでその方々の知恵を絞ってやっていただければ、ワインに合う料理でも、フルーツを使ったデザートも、甲州市全体の活性化のヒントもそこにあると思う。また、温泉旅館自体の活性化のヒントもそこにあると思う。資料にも「意外に昼ごはんに苦戦している」と書かれているわけだから、そこで昼ごはんを温泉をセットする内容だとか、それはどこでもやっていることだが、そういうところにも食と文化について、随分ヒントが隠されていると思う。

旅館の方々が集まって何らかの形で機会を設けて、さらに外部の方々の知恵を入れるといった活動を期待している。

委員長： 本気になってやる人たちが何人いるかということだと思う。湯布院なども、料理人の会があって、全体のレベルを上げるといっている。皆、アイデアだけを出して実行しない。ぜひ、今の甲州市を美味しくするというのをきちんと謳って、フードディレクターも入れて美味しいものを作る

先程言ったように甲州野菜というものがあれば、甲州野菜のコーナーを作るだけでも違う。江戸野菜もタキイで種を仕入れている。農業試験場も巻き込んで、本気でやらないと山梨県は美味しくならない。今、言われたことが実行できるような市の体制と、商工会議所や農協などと連動するようなことをぜひお願いしたい。

委員： 甲州市の観光メッカのぶどうの丘は年間40～50万人のお客さんがある。市の公益事業としてやっているが、こういう施設で、甲州市の特産品を活用した、料理の方法を満たすことも仕掛けとして必要ではないかと思う。

ぶどうの丘がパイオニアになって、この時代に合った、ちょっとした工夫をし

ていけば、市内の旅館業者などもある程度、知恵が出るのではないかと思う。あそこをもう少し活用できるような方法を。

委員長： 料理を核にするか、料理の研究会を地域でやっていくというのを観光の中で具体的に組みめるようなことを、ぜひこのプランの中に入れていただきたい。

【市民協働による受け入れ態勢の整備】

委員長： 続いて、市民協働による受け入れ態勢の整備。以前に言ったように、観光まちづくりということで、観光は誰が進めるのか。市より住民が主だとは思う。第5章の市民協働による受け入れ体制の整備。観光ボランティアのひとづくり。また、地域の歴史・文化・自然 学びの市民運動、歩く観光ツアーと市民協力、おもてなしの心ということだが、山梨県は少し元気がない気がする。一部、元気にやっている人もいるが。意見があれば。

先程、皆さんに見せた別府の資料は全部住民がやっている。下田も住民、湯布院も小布施も住民の活動。これまで観光は行政に任せてきたが、観光は行政が得意な分野ではない。住民は観光客と接しているから、もてなしの食べ物も分かるはず。行政がこうした応援をしてくれたら、いろいろできるのにといいたことがあればご発言を。

委員： 観光協会とか、ワイン協会とか各協会がある。この協会と行政が定期的に話し合い、協会側が「これをしたい」と言った場合、行政が応援するとか、そういうことが今まであったのか。例えばワイン協会が何かやりたいという意見を行政にぶつけて、行政がそれに対して応援するという話し合いはしたことがあるか

事務局： 個々には話をしたことがあるが、連携してというところまではない。

委員長： 制度的にはないということ。他のところは制度的にそういう取り組みをしているから、イベントをするときには商工会も、農協もそれぞれの立場を離れて、皆で協力しなければという風土がある。みなで協働ですという機会が具体的にないと、集まるのは難しい。食を考えるといったときに、農協も商工会議所も入ってやるなどというのが良いのでは。具体的なテーマがないと、ただ総会だけ行われるということになる。

委員： 例えば、お祭りがあるとか、イベントがあるという時には集まって、それありきで話をする。要するに打ち合わせといったことはできるだろう。ただ、何かしようというときに何かないと何も生まれない。だから行政がバックアップしなからできるものはあるかな、と思う。

委員長： 今言ったようにテーマがあったときには、ライバルであってもみなで集まって協力できる体制を市が作り、一緒にやっていく。そこにJRの人も呼べばいい。

意外とそういう推進体制がない。それぞれの業界が別々に動いてしまっている。社会のテーマがあって、問題を皆で解決して行こうというもの。

委員： 毎年やるものではなく、新しくテーマを決めてやらないと新しいことは生まれない。

委員長： では、毎年、これをいつまでにやろうというテーマを決めて、その関係者に集まってもらえるようなものを作る。それは一つに、食やグルメがあるし、歩く観光もある。その時に臨時の店もできるし、さまざまな新しい挑戦が可能となり、それが観光のまちづくりの理想だ。良い意見だと思う。

委員： 例えば、甘草屋敷などは観光のボランティアガイドさんがいらっしゃるが、そのシステムをもっと充実させる。私たちが美術館などに行くときも、学芸員に説明してもらって回ると、ただパンフレットを自分で見ながら回るのは全然違う。放光寺でも、放光寺の方をお願いして、全部説明していただくのと、ただ単に自分たちで重要文化財を見て回るとでは、全然意味合いが違う。だから歩くフットパスみたいな感じで、恵林寺、放光寺など地域を回るボランティアがいたらどうか。有償でのボランティアさんを育てて行く方向にすれば、ずっと塩山地区の文化観光というのは充実してくるのではないか。

委員長： 観光に関係するボランティア団体はいくつあるのか？甘草屋敷のボランティアとフットパスの関係、ワイン・ツーリズムもボランティアなど、観光に関係するボランティアの全体像はつかんでいるか？

事務局： その3つかと思う。

委員長： ボランティア NPO を育てて行く。市全体でボランティアガイドの仕組みが充実すれば、有償でやってもよい。1時間千円だったら、観光客が2人、1人500円でも、2人来れば払えてしまう。

事務局： ボランティアガイドではないが、地域を考える会が今、あちらこちらで立ち上がっている。そういったものを将来的には例えば行政の支援で広げていく可能性は持っているかと思う。

委員長： ボランティア精神を持つ人たちをもっと地域のガイドに育てて行く。

委員： 街のソムリエもそうか。

事務局： 街ソムリエもそうだ。

委員長： 行政は人を育て、ガイドを育てていく。団塊の世代などを取り込むなど、ボランティアを増やしていけるような機会を地域ごとにつくるとか、テーマごとに作るという提案をこの委員会でお願いしたい。

若い人も参加の機会を作っていく。小布施も東京理科大学と、まちづくり研究所を一緒にやっている。地域の人と若い人が一緒にやっている。こうした研究所は、若い人たちのまちづくりへの参加のきっかけにもなる。

委員： 塩山の山梨県立産業技術短期大学では観光ビジネス科があるため、こちらで観

光を勉強するならボランティアに関われるというのもいいと思う。サークルなどもあるかもしれないが、学生が中心になって、ボランティアという形があるといいなと私は思った。

委員： 今、産業技術短大の話が出たので説明させていただく。甲州市からいろいろお話をいただくが、こちらの学校は文部科学省系の学校とは違い、厚生労働省系の大学である。通常単位を何単位取れば卒業というよりは、むしろ高等学校に近い学校でぎっしり授業が入っているため、他の大学のような空き時間がなかったり、夏休みが非常に長いという状況にはなっていない。そうなるとボランティア活動にも関われない。我々としてはやりたいが、なかなか実現しない。

委員長： 確かに短大のカリキュラムは、夏休みまでぎっしりだ。その辺の理由もいろいろあると思う。東京にもワイン好きの学生がいたりする。また、農業に興味を持っている学生もいる。学生たちもボランティアになって、地域の人とお手伝いをしていくと、将来その人たちがお客さんになったり、この街のファンになったりする。若い人が来ると、地域のお年寄りが頑張ったりもする。東京も近いから、そういうことを考えてほしい。

【効果的なPR活動の強化と顧客満足度の測定】について

委員長： 効果的なPRについて。先程のインターネットの話もあるし、市が出しているパンフレットに対する意見もあると思う。観光課の行う仕事、商品のPR等。旅行業社の関係、中銀を使っていこうなど、パンフレットから電子メディア、商品、PRは非常に重要だが意見を聞きたい。

委員： なるべく多くのことを入れたほうがいいと思うが、インターネットもそういう方針でやるような方向付けがあるか。

事務局： 今、甲州市に関係するホームページ（HP）が4つほどある。来年度、できれば23年の初めから新しいHPを作りたい。今、一つの情報を入れるのに4つのHPをバラバラに出しているため、一元化したいという考えがある。今日、ここでそういう議論が後押しになれば早めることも可能。

委員長： 統合することと、個性化を図るというのは両方した方がいい。統合してしまうと、4つが均質化してしまうということ。個性のあるところをネットワークしていくという形のほうがいい。新潟市も14の町が合併したりしているところは、1つでは魅力がないからいろんな顔があったほうがいいということで、いろんな顔を見せながら一つに積み上げていくということをしている。

事務局： 市が関わっているものをする。それ以外はリンクで。

委員長： 他のところでも、インターネットのHPは非常に工夫している。インターネットで検索して、皆さん旅行にでかけるため、魅力的なデザインやコピーがあるH

Pやパンフレットをつくるのは非常に重要なのだが、意外にこれがない。おざなりになっている観光のHPが多い。この辺をどうしていったらいいのか。優れたWEBデザイナーを使って魅力的なHPにするだけで、アクセス数が急に増えるということもある。そういうものから効果を上げるということをしてほしいと思う。

山梨総研では、山梨でも全国的でもいいが、魅力的な観光HPは調べてあるか。

総研： 先日、山梨県の観光HPが更新された。デザインもそうだが、情報が広域を網羅し、分かりやすく作り変えてある。

委員： 目的に対して、どうすればいいのかというのが分かるというような形のほうが分かりやすい。とすれば甲州市もそれに倣ってはどうか。

委員長： 全国的に評判がいいのは良い写真が多いところ。普通の人、文字はあまり読まず、写真から入るところがある。だから良い写真を持っているHPというのは観光には効いている。旅館もそうだが、良い写真があると来たくなる、良い風景があると来たくなる。だから良い写真を絶えずその季節に提供していく。勝沼は今、葡萄が綺麗だとか、塩山の歴史の道を歩くとか、大和の渓谷の風景が綺麗だとか。写真が素晴らしいと、見た人たちはドキッとするというのがある。

（写真の町としてやっている北海道の東川町の話。前回と同じ内容であるため省略）写真映りの良い町にする。塩山も良い風景、歴史的なものもある。その季節になると写真を撮りに行きたくなる人は多い。高齢者の方も良いカメラを持って歩いている。HPなども写真が美しくないと人は来ない。

以前、勝沼で出したアルバムは地元の写真家が撮った。HPでもっと写真がきれいで出てきたら、ここは歴史も自然もあるし、食べ物も美味しそうに見える。

委員： 写真クラブの人と協力して。

委員長： それもよい。できるだけ良い写真を。素人の写真ではやはりちょっとダメ。プロの写真が入るといい。

委員： うちも料理も提供するし、お土産も売るが、やはり写真。何を見てくださるか。ただし、民間で一番苦労するのはやはり写真。良い写真を撮ろうとするとプロが必要だが、プロの写真はやはりお金がかかる。個々の店や個々の企業は多少、しかたないものがあるが歴史的なもの、自然など代表的なものは、できれば市でライブラリを持って、許可制になると思うが、民間がある程度自由に使えるような写真に特化した部分がほしい。市や県のHPだけでなく、我々にも使わせていただけるようなものを。またはパンフレットにも提供できるような写真がほしい。権利が発生するため、難しい部分がある。その辺がネックになる。

委員長： 10年くらい前に撮った写真を平気で使っているというのが今の状況。プロを使うときには無料というわけにはいかないが、安く使えるような形ができればいい。

委員： お金がかかるが、市で予算を取って写真を集めたものを、住民がある程度申請

をする中で使えるようなシステムにすると助かる。それぞれが個々でプロのカメラマンに依頼すると最低でも数万円かかるため、なかなか良い写真は撮れない。

委員長： 難しいのは、デザインの問題と写真の問題の2つがあり、うまくいかないことがある。優れた写真に、デザイナーがアドバイスしてくれたり、教えてくれたらベスト。

委員： それができれば嬉しいが。

委員長： 全国でもなかなか上手くいかない。良い写真があっても下手なデザイナーが処理すれば、写真家は嫌がる。本当に良いメディアを使って行けるという方向にいけば、皆、大菩薩の良い写真と良いデザインでやっていける。これからは、こうした方向に行くと思う。サンニチ印刷の並木淳さんというデザイナーがいて、学生とのゼミ合宿の写真や書いた文章を美しくレイアウトしてくれた。あまり上手くない学生の写真でも、デザイナーが上手くやってくるとこれがいい。こうしたデザイナーとの仕組みができるとパンフレットも良くなる。「ある～くこうしゅう」などは良いマップだと思う。行政にデザイン面での応援ができるといい。市が作っているマップ自体のレベルが上がってくると良い。予算がある中ではあるが、できるだけコストを安く、良いものができるような体制を取る方法はあるのではないか。

委員： 各社が持っているHPの通信簿というのがある。AさんのHPは何点だという、山梨県の風林火山ビジネスネットという欄で、私たちの会員さんが販路開拓、仕入れ等をどうするかということを検討する中で、見られるHPをどうしたらいいかということの研究し、風林火山ビジネスネットというものに参画させてもらった。全国で何十万件もある中で、たまたま甲州市が1位になった。そうしたら、飛躍的にアクセス数が増え、販路も増えた。

観光についても見られるHPをどう作るかということを中心にしていけばよいのではないか。それには、デザイン料などがあると思うが、今、インターネットを活用しない人はいないため、もう少し振興計画の中でも取り入れていただき、どうすれば見られるHPになるかといった知恵を出せばいい。

また、買い物市場というのがあるが、かなりアクセスされている。そこで会員になったらかなり売上が伸びた。私たちも今、買い物市場を推奨している。多少、年会費がかかるが、何人かからは売上が伸びたという報告を聞いている。

委員長： インターネットは伊豆の下田でも、インターネットのHPを立ち上げて、住民活動をリンクさせるといったことを地元の人とやっていて、よいものがある。地元でそういう人を育てていけば、WEBデザインもよくなっていくと思う。そういう人を地元で見つけると効果がある。また、地元の甲州市のコンテストとしてHPコンテストなどをやって、それをクリックで投票して良いものを褒めてあげるといったのも一つの方法かもしれない。

【広域化・国際化に対応した観光地づくりの推進】

委員長： 最後の広域化と国際化に対応した観光地づくりについて。

先程話があったが、3つの町が合併したことをどう活かしていくか。また、今の市内の観光地の連携や、産業間の連携、市役所の中の連携、ネットワークによって広域化、国際化に対応して行く戦略をどう立てていくかということだが、これに対して意見があれば。先程、一つあったのはJAとか商工会議所などが一緒に話す場を作っていくという連携の場づくり。観光課は予算が少ないが、そういうことを推進するためにも、この委員会、観光課が他の課と一緒に連携していけばよいのではないか。後押しできるアイデアがあれば言っていただけたらありがたい。

また、合併したことをメリットに持っていく方法論があれば。

事務局： 市のイベントのあり方だが、合併後、これまでの旧市町村そのままのやり方できている。なかなか市全体としてのイベントになりえず、外に向かっての情報発信をどうやっていくか、もし、この場でご意見があれば。運営の実施体制もあろうかと思うので何かご意見があれば参考にさせていただきたい。

委員長： イベントに関してどうか。旧市町村を一つにしたイベント。

事務局： そういうものが必要なかどうか。今はそれぞれのやり方のままで来ている。

委員長： 甲州市全体を盛り上げるイベント、玉を大きくすることで全国へ発信する良いものをやろうということだが、何かアイデアがあれば。

委員： 当然、市全体で打ち上げるのはいいと思うが、一緒にできないものもある。それをうまく変えて全体のイベントとしてできる形に持っていければいいと思うが、今の状況から見ると難しいと思う部分がある。

委員： それぞれの古いエリアということだけではなく、塩山、勝沼、大和の中での細かいエリアの伝統的なイベントがあると思う。そういう部分と、旧市町村ごとのイベント。今回、甲州市という形になって一つの材料的なイベント、その全部をやろうとすると、予算的、時間的に難しい。イベントのためのスタッフという形になるとそれ以外のことのできないのも非常に難しい。これは何かを犠牲にしても一つに絞るということではないが、若干絞って、先日も政府でさかんにやっていた事業仕分けではないが、そういうものが合併したという現実の中で必要なのではないか。ただし、それぞれの地域の伝統・歴史という部分があるので、非常に難しい仕分けにはなるが、逆に言うと、地域ごとにいくつか絞ってほしいという形も含めて、必要なかと思う。

市全体のものは予算も含めて、毎年やらなければいけないのか。大きなイベントや、御開帳にしる、御柱にしる、5年に1度とか、何年かに1度ということも

している。だから、小さいし予算が今はないということにおいては、市を代表するイベントというのは2、3年に一度ということも考えてよいのではないか。

委員長： いろいろなところを私は見ているが、今、言われたように一つ大きいイベントを作ろうとする町と、小さいものは月間を決めてその月間のときにそれぞれの個性を活かしたものをやろうということをしているところもある。別府も、期間を決めて、8つの地域で全部できるようにしようとかしている。だから、今、塩山なら塩山でやっていること、勝沼なら勝沼でやっていることの期間を決めて、全市的に盛り上がりて行くというのがお金を使わずにできる。その時には、フットパスもする、御開帳もする、農村部ではこういうことをするといった、決めた月間に小さなものをいろいろ楽しめる。小さな経済、小さなイベントを重ねていくというのが多い。

少し我慢して、事業仕分けのように他のものは切るといった2つの方法があると思うが。

月間を決めるというのは良いのではないかと思うのだが。その際には、無料バスも出て、魅力が一堂に見られる。いろいろなものをあちこちで楽しめるというのもいい。農家も盛り上がるし、観光事業者も盛り上がる。

委員： 非常に言いづらい部分だったので敢えて避けていたのだが、例えば4月は桜とか桃源郷があり、甲州市にもかなり花が咲くという中で、特に塩山にしても、勝沼、大和にしても、武田氏の史跡の中で、または案内するしないに関わらず、ある祭りがわりと集中している。県を代表する信玄公祭りも4月にやるという中で、この地区も4月にいろいろなお祭りが集中していると聞いている。春だけでなく、秋にもということも考えられるし、勝沼というと秋ということになるが、先程委員長がおっしゃったような部分での集中という一つの期間としては春に集中させるというのもいい。甲州の中のものを集めると、1ヶ月くらいになると思う。

委員長： 甲州の一番魅力的な季節にまず一つやる。それを成功させたら違う季節でやるということで、経済的にも潤う。皆さんぜひ、やるだけではなくて、新しい商品を開発し買っていってもらったり、皆が潤うと来年もイベントや祭りを続けていく金になると思う。収穫の季節がいいのか、それとも春先、ゴールデンウィークにぶつけるのがいいのか、数案出していただき、検討していったらと思う。

そういうときに塩山の温泉郷も魅力ある形で訴えていけばいいと思う。

いろいろなことを聞かせていただいたが、それをまとめたところで、来月に中間発表という形になると思う。

今日のところで、これだけは言っておきたいというものがあれば。なければ時間がきたので、第3回の委員会を終わりにする。

もし後で何か気付いたことがあれば、メールなりFAXなりで送ってもらってもいい。2時間半過ぎた。私が少し喋りすぎたのかもかもしれないが、今日はありがと

うございました。

事務局：議事の途中で、JRの塩山駅にレンタサイクルがあり、どのくらいの利用者があるのかという質問があったため、調べたところ平成20年度に年間延べ400台、21年12月までに既に500台が貸し出されている。概ね、春の貸出率が一番高い。

また、委員長からも話があったとおり、次回は1月中旬を目途にこちらで案をまとめて、皆様に見ていただきながら進められるよう、第4回を予定したいと考えている。

では、第3回の策定委員会は議事を終了したため、これにて閉会させていただく。どうもお疲れ様でした。